

# 【勝つ〜中小企業のものごとり〜 Vo.1】

## テックコーポレーション①

### 紆余曲折

自動車のフィルム貼りやコーティング処理、2段式立体駐車場、介護用品、高級紳士服地、貴金属、羽毛布団……。テックコーポレーション創業者の中本義範がこれまで手がけてきた事業の数々だ。環境機器メーカー

として確固たる地位を築いた同社の三十数年の歩みは、文字通り紆余曲折の連続だった。57歳の中本はごく短いサラリーマン経験を除く人生の大半を経営者と布団……。テックコーポレーション創業者の中本義範がこれまで手がけてきた事業の数々だ。環境機器メーカー



この30余年、中本は資金繰りに苦勞し手形商売で失敗し横領にも遭い、実家の差し押さえの現場まで目の当たりにしてきた。それでも今日まで生き残ってこれたのは「どんな商品でも売る自信がある(中本)」という営業力に対する絶対の自

# アイデア事業化 撤退も迅速

## どんな商品でも売る自信

信と豊富なビジネスアイデアだった。中本は自分のアイデアを商品化する一方で将来性がないと判断した事業からはほとんど撤退していった。そのスピードの速さは驚くほどだ。そして選択した将来は「法律の規制を伴う環境分野でオンリーワン企業になること」だ。

### 立体駐車場事業

テックコーポレーションの前身である「柳井ミングセンター」は1977年の創業。ミングとは自動車のコーティング処理のひとつで当時流行していたという。山口県玖珂郡(現岩国



市)の生まれである中本は、父や兄らと事業を行っ

ていた。その後社名をオー・トテックに変更し本拠を広島に移転。さらに90年に現社名に変更したのは「自動車だけでなく幅広い事業を営もう」との思いからだ。しかし当時この事業は順調そのもので、全国17カ所に拠点を置き従業員は150人にのぼった。それでもあっさり撤退し、さまざまに事業に手を出しつつ次の一手を探っていた。

白羽の矢を立てたのが立体駐車場事業。しかも祖業である自動車のコーティング業

### 大手参入で断念

しかし、さらなる試練が待っていた。大手企業がどんどん参入してきたのだ。価格は劇的に下がり同社の製品はまったく競争力を失っていた。そこであっさりこの事業は断念し現在では

し、中本は経営者としてはメンテナンスのみとした。それでも「誰でも手がけられる事業は資本力のある者が勝つ。中小は競争の少ない分野で勝負せねば」との外に見いだすべく勇躍米国に打って出た。社員数人とロサンゼルスのホテルに居を構え、手当たり次第に電話をかけ商談を申し入れた。「今考えるとよくあんなことができたものだ」(中本)と振り返るが、幸いにしてパートナーと巡り合い輸入販売が始まる。(敬称略)

▽所在地 広島市中区三川町2の6、082・2471100▽社長 中本義範氏▽従業員 130人▽資本金 7000万円▽売上高 約70億円(13年7月期)▽URL www.tec Incorporation.co.jp

## テックコーポレーション②

### 法施行が転機

2001年5月、食品廃棄物の排出を抑制し、資源として有効活用する狙いから食品リサイクル法が施行された。その後何度かの改正を経て規制はより強化されている。テックコーポレーションの主力事業の一つ

である生ゴミ処理機器は法施行の2年前、99年に目を付けた。さまざまな分野で事業展開してきた同社が、環境機器メーカーに脱皮する第一歩だった。

社長の中本義範と食品リサイクル機器との出会いは古く、90年代後半のこと。知人を介して広島県内の企業でバイオ方式による食品残さの減容機を見学し、将来性を感じた。その最中に近畿大学工学部の野村正人教授と知り合う。この出会いが食品資源リサイクル機



## 産学連携で生ゴミ処理装置



器「マジックバイオくん」の開発につながった。

この装置は自然界に生息する微生物で生ゴミを分解する。いわゆるバイオ方式

微生物で生ゴミを分解する「マジックバイオくん」……の処理装置だ。微生物のノウハウを持つ野村教授と、装置の技術を保有する同社との産学連携の産物だ。同社の装置に用いる微生物は分解能力が高いうえ、アンモニアやメタンガスなどの発生が少ない。悪臭の発生も少ない。中本は「優れた菌を保有

有しただけでなく、におい対策の研究を惜しまなかったことが成功につながった」と振り返る。加えて「攪拌・破碎用の爪にも工夫を凝らした。取り付け角度を微妙に調整し、より細かく破碎するこの爪は特許を取得。生ゴミを攪拌して、大部分を水蒸気と二酸化炭素に分解し、減容率は85%から95%にのぼる。

### 全国で展開

主に販売店方式で販売したこともあり、当初から全国展開できた。これも中本のアイデアによるところが大きい。食品リサイクル法

が施行され、環境問題がクローズアップされる以前だけに「商品はできたがまったく売れない。どうすれば売れるか考えた結果」だ。

### 今なお主力商品

生ゴミ処理装置の事業には大小さまざまな企業が参入したが、生き残っているところは限られている。その点、先行した強みと微生物などの差別化技術で今も主力商品として同社を支えている。

ただ、需要が一巡したこどもあり、今は一服状態。かつて同社の屋台骨を支えたこの事業も、今では売上げの30%程度になった。これに代わって急成長しているのが電解水や水素水、ナノバブル発生装置などの水関連事業である。

# 環境機器メーカーへ脱皮

「敬称略」

# 【勝つ〜中小企業のものごとり〜 Vo.3】

## テックコーポレーション ③

### 外部の知恵活用

自動車のコーティング処理をなりわいとしていた企業が環境メーカーに変身するためには、強力なエンジンが必要になる。テックコーポレーションにとってのエンジンは産学連携であ

り、特許戦略だった。生ゴミ処理装置への参入には、

今も同社顧問を務める近畿大学の野村正人教授のアドバイスがあった。そして主力事業に成長した電解水や水素水などの水関連事業には巧みな特許戦略が不可欠だった。

もとより同社製品には既存特許を活用したものが多く。創業当初からの風土だ。執行役員で技術部企画開発部長の中野由則も「技術やノウハウなどの乏しい

# 業務用洗濯機に狙い絞る

## 電解水生成装置に参入



▲知恵と労力が必  
要。そこが同社  
のたけている点  
で、電解水事業  
はまさにその典  
型例といえる。

▲環境分野第2弾  
企業が新規事業に乗り出すには外部の知恵を有効活用するのが近道。必然的な選択だったと振り返る。ただ基礎になる技術がいかに優れていても、それに肉付けして商品化し販売するには

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

▲環境分野第2弾  
「洗濯に特化した装置は他になく、狙いを絞ったのが良かった」（社長の中本義範）と強調する。

▲環境分野第2弾  
企業が新規事業に乗り出すには外部の知恵を有効活用するのが近道。必然的な選択だったと振り返る。ただ基礎になる技術がいかに優れていても、それに肉付けして商品化し販売するには

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

▲環境分野第2弾  
電解水衛生環境システムは同社にとって環境分野の第2弾に当たる。電解水は電解質を添加し電気分解することで得られる。陰極か

（敬称略）

# 【勝つ〜中小企業のもものがたり〜 Vo.4】

## テックコーポレーション 4

30年以上も経営の第一線 豊富な経験を中小企業に生かすに立つテックコーポレーション してらおうと、13年8月ヨソ社長の中本義範にとつて、2012年から13年は

かねて温めていた構想が具現化する年になった。12年8月に国内外の特許を中小企業に移転するための新会社、パテントコミュニケーションズを設立。続いて豊

### 思い入れ本業以上

新会社はいずれもテック本体ではなく、中本や専務の大野博志ら幹部が個人出資する形にした。しかし、中本にとつて本業以上の思い入れがある。

パテントコミュニケーションズは、これまで既存特許をうまく活用すること、あるいは自社で40件近



# 集大成、特許戦略社を設立

## 3倍働いて6倍貢献



中小企業の経営者の悩みがよく分かる…と中本社長

路がわからないといった悩みはつきもの。中本自身の経験を生かし、幅広く支援する。もちろんテックコーポレーションが事業化する場合もある。

### 悩みが分かる

コンサルティング会社こそ中本の経営者人生の集大成ともいべきものだ。決して順風満帆ではなかっただけに、「自分には中小企業の経営者の悩みがよく分かる」。

### 期待の技術

環境装置事業は内需型産業と思われがちだが、海外からの問い合わせが引きも切らない。アジアが中心で、シンガポールに拠点を

設けた効果もある。12年に初の商談会をシンガポールで開催し、水環境技術の移

(敬称略)

(この項おわり。広島総局長・嶋崎直が担当しました)